

事業区分	文化芸術事業	育成・創造事業
事業名	ARTS FOR EVERYONE 創造への扉	
目的・内容	誰もが芸術文化に親しむ環境を生み出していくために実施。少人数制のワークショップとし、プロの講師と直接触れ合うことで、ロイヤリティを高め、文化芸術に対する知識を深める。拠点施設のない西部地区においては、新規鑑賞者開発も行う。「ARTS FOR EVERYONE ココロのサブリ」及び「楽演祭」、鑑賞公演と連動して推進することで、新規鑑賞者をリピーターに育成し、コアなファン層の拡大を図る。	
開催日時	①平成23年 6月12日(日) 13:30~15:00 ヴァイオリン&ハーブによるクラシック演奏と解説、楽器体験など ②平成23年 7月24日(日) 14:00~15:00 落語解説と落語二席 ③平成23年 9月18日(日) 14:30~15:40 桂雀松独演会の演目や噺家の特徴、江戸と上方落語の違いなどを解説 ④平成23年10月10日(月・祝) 14:00~15:30 ジャズレクチャー、参加者とのセッションなど ⑤平成23年10月30日(日) 13:30~15:00 トランペット&バイオリンのミニコンサートと楽器体験、クイズなど ⑥平成23年11月19日(土) 13:30~14:30 和太鼓のワークショップ ⑦平成23年12月23日(金・祝) 14:00~17:00 中高生への楽器クリニックと講師によるデモ演奏 ⑧平成24年2月4日(土) 13:30~14:30 朗読とピアノ演奏、ピアノとオカリナの演奏	
会場	①倉吉未来中心 セミナールーム1 ②米子コンベンションセンター 第4会議室 ③とりぎん文化会館 リハーサル室 ④倉吉市広栄町体育館 ⑤米子市淀江文化センター イベントホール ⑥米子市文化ホール 和室 ⑦米子市児童文化センター ⑧米子東高校、米子市立後藤ヶ丘中学校	
参加費	無料	
実施状況	参加者数 613名	定員 640名 参加率 96%
事業費状況	予算額	収入 0円 支出 3,454,000円 収支比率 —
	決算額	収入 0円 支出 2,106,747円 収支比率 —
参加者アンケート(主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・クラシックはあまり聴く機会がなかったですが、これからは色々行ってみたいと思います。 ・目の前で聞く(見る)ことの楽しさがよく分かりました。 ・落語を聞く時に、今日のお話を参考にしたいと思っています。なお一層落語が面白くなると思います。 ・とても楽しくまた勉強になりました。ジャズの歴史、リズムなどがジャズの演奏とともに身体に染み込んでいく感じでした。 ・沢山のお友達と音楽や楽器に触れ合える機会は、子供も大人も貴重なのでとても良かった。 ・今迄知らなかった事が色々よく分かりました。直接、プロの方に教えて頂き、とてもためになりました。 ・素晴らしい催しでした。演奏者、聴衆が近くで話し合ったり出来るのはとても楽しいです。 ・催しの認知度が低いのでその点の改善が必要です。 	
1次評価(内部)	[成果] ・本事業の目的である新規鑑賞者開発とリピーター育成を踏まえ、事業推進できている。また、関係者と協働することで事業に広がりを持つことができた。 ・プレ公演は、本公演出演者やその関係者による出演を重要視したため、本公演へ繋げる流れができた。 ・小さな子ども連れの家族や学生など、ホールでの有料公演になかなか来られない層に鑑賞の機会を提供できた。 [課題等] ・プレ事業において、広報期間の短い事業があったので改善していく。 ・プレ公演に関しては、公演担当者が企画案を提示する方が良い。その方が、プレ→本公演の流れがより強固になると思われる。	
2次評価(財団評議員)	[成果] ・各領域のワークショップが、新規の顧客の開拓をはじめ、県民が芸術・文化に身近に接する事業であった。 ・事業に参加した人にとっては、より幅広い知識や楽しみ方を知ることができ、効果はあった。 [課題等] ・本事業は参加者が望む方向で地道に続けることが必要である。 ・まだ定着した事業ではないので、結論を求めるのは早計であり、文化・芸術を楽しむ層を着実に育てる姿勢で取り組んでいく必要がある。 ・吹奏楽関係のイベントでは、連盟との連携は欠かせないため、どういう対策をとればよいか、膝を詰めて熟慮すべきではないか。	
今後の対応、取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も可能な事業は関係者と協働していく。また、1事業の広報期間を少なくとも2ヵ月は行うように準備していく。 ・24年度はプレ事業と本公演、リピーター育成事業の担当者を同一にして事業を推進していく。 	